

第34回日本心臓血管外科学会学術総会

手取屋 岳 夫*

第34回日本心臓血管外科学会学術総会は、「心臓血管外科の新たな発展をめざして—挑戦と調和—」をテーマとして、佐賀大学医学部胸部外科学教室 伊藤 翼教授が会長を務められ、福岡国際会議場において平成16年2月18日から20日までの期間で開催された。併せて Developing Academic Surgeon 3, 第18回不整脈外科研究会, 第3回再生心臓血管外科治療研究会, 第2回 Harmonic Heart Academy 研究会, 第22回日本心臓移植研究会が同時開催された。

総会においては、シンポジウム3題、ビデオシンポジウム2題、招請講演11題、一般演題650題に加えて、教育セッションとして7題のモーニングセミナー、2題のイブニングセミナーが行われた。それぞれのセッションでは、厳選された演題が発表され、活発な討論がなされたようである。3日間を通して拝聴した招請講演とシンポジウムについて報告する。

会長講演では「大動脈外科への挑戦—From Aortic Root to Thoracoabdominal Aorta」について、弓部大動脈瘤手術、胸腹部大動脈瘤手術における教室での手術術式の変遷や現在の手術法の特徴や工夫やこだわり、およびその成績、さらに今後の大動脈外科の展望について講演された。

今回特に目を引いた新しい企画は、招請講演に海外から11名もの講師を招いた点であろう。

招請講演1では、Dr. Tirone E. Davidにより“*Aortic Valve Sparing Operations for aortic Root Aneurysm*”のテーマで、衛星回線を使い、彼のオリジナルである大動脈弁温存手術の詳細について講演された。講演では、大動脈弁基部の解剖、血行動態などの生理的構造的特徴と、いわゆる David 手術のこれ

らに対する妥当性や、手術における pitfall など、術式考案者ならではのお話が聞けて大変興味深かった。招請講演3の Dr. Hazim J Safi による“*Distal Aortic Perfusion and Cerebrospinal Fluid Drainage for Thoracic Aortic Repair: Twelve Years of Organ Protection*”のテーマでの講演では、現在でもわれわれ大動脈外科医がもっとも頭を悩ませている脊髄保護についての最新の情報が報告された。招請講演7では Dr. Bauer E. Sampaio が *Hemodynamic Forces and Coronary Artery Disease: The Molecular Basis* を講演し、分子生物学から冠動脈病変の検討をされ、最新の知見も含めた現在の血管病変解明への挑戦の様子がとても興味深かった。

シンポジウムは急性大動脈解離の手術戦略—救命率と予後をどこまで向上できるか?、遠隔成績の向上を目指した下肢血行再建術、修正大血管転位症の治療戦略というテーマで活発な討議が行われた。

5つの特別企画では、特別企画1として「医療事故と法の関わり」というテーマで今問題になっている医療事故情報の警察への報告を含めた諸問題を法学者という立場から、東京大学法学部の樋口範雄教授がご講演された。特別企画4では、「温故知新：心臓血管外科の歴史に学ぶ」と題して、心臓血管外科の歴史を振り返り、若い医師に向けての提言がなされた。

本邦の演題も具体的な内容の研究が多数報告され、心臓外科医の日常的な努力が偲ばれる臨床的価値の高い発表が多く見受けられた。

特別企画や招請講演などは興味深い内容も多かった反面、演題には類似した内容も散見され、3日間という限られた時間を考えると、さらなる演題数の制限が必要と感じた。学術集会は合計6会場において同時進行で開催されたため、残念なが

*昭和大学医学部第一外科学教室

ら全部に参加することはできなかった。演題数、会場数を少なくして、一般演題においても十分な討論や意見交換が可能なような時間配分をすることが、今後本邦のメジャー学会としての目指すところではないかと思われた。

衛星回線による講演は、コストパフォーマンスについての論議を除けば、すばらしい内容で多忙極まりない著名な演者から貴重な知見を得られたことで有意義な企画だと思われた。一方で、個人的には、今後はアジア諸国との交流や情報交換が我々にとって重要と思われることから、アジア諸国の先進医療を目指している人たちとの、現場を

交えた意見交換がこのような企画の中に取り組みられてもおもしろかったのではと感じた。

以上第34回日本心臓血管外科学会学術総会の印象を述べたが、多くの施設の最新の成績や新しい試みにふれ、私自身非常に勉強になった。本学会がますます発展し、若手心臓血管外科医が大きな夢と希望を持ち研修・修練に打ち込める医療環境を与えられるよう祈念して印象記としたい。

次回の第35回日本心臓血管外科学会学術総会は2005年2月23日から25日までアクトシティ浜松で数井久教授(浜松医科大学第一外科教授)のもと開催される。